

団長の独り言

「時間との向き合い方」

ますだゆみ

今週も、団長の平野恒雄に代わり公演終了後の特別編として、ますだゆみの独り言をお届け致します。

1・2月の本番が終わり、次の作品の稽古が始まるまでのほんの束の間。

ふぁんハウスメンバーは「充電期間」に入っています。

制作的な仕事は継続しています
が1年の活動としては一区切り
ついた状態です。

この間、私は何をするかと言えば
まずは身体のメンテナンス！

稽古中から本番までは身体を酷
使するので、色んなところを痛め
ガチです。

特に私は知らぬ間にあちこちア
ザだらけ、なぐんて事が日常茶飯
事！

それはきつと身体が安定してい
ないから、つまづいたり、ぶつか
ったりするんですね。

ブレてしまった芯を整え直す為
に、日舞のお稽古も再開しました。

又、外身だけでなく、中身を整え

る事も大切。

普段会えない人と会ったり、のんびり海を見に行ったり、観劇や美術鑑賞で心に栄養を取り込むことも心がけています。

いろんなものを取り戻す、そんな時間でもありません。

「時間」と言えば、2025年の公演作品「夏の夜空へ」の中に好きなセリフがあります。

「世の中、たくさんの不公平があるけど。唯一公平なのが時間。その時間をいかに有効に使うか後悔しない人生が送れるの」

そこそこ長い年月を生きてきた私ですが

「あの頃、これをやっておけばよかった」

「今まで何をしてきたのだろう」

「あの日を取り戻せたら…」

と後悔する事は数知れず。
なので、このセリフを初めて聞いたときはとても胸に刺さりました。

限られた時間の中で何をするか、何が出来たのか、そんな事を考えていると、ぼーっと過ごしている事が、もったいないと感じます。

今、このタイミングで可能な限りやれる事はやる！諦めない！

これが最近の私のモットーとなっています。

そして、自分の為に使う時間も大切ですが、「誰かの役に立てる時間」が作れたなら、素敵な事だなあと 생각합니다。

演劇はまさにそんな時間の使い方ができる場かもしれません。

劇場にわざわざ足をお運び頂き、ほんの2時間あまりとは言え、一日のうちの大切な時間を、私たちのお芝居を観るために、時を共有してくださるお客様。

そのお客様に、楽しんで頂ける時間、笑顔になって頂ける時間、劇場を出る時に、心が軽くなったり小さな一歩を踏み出すきっかけになる、そんな時間をお届けする事ができたなら、最高にうれしい事です。

その為には自分自身も楽しく、心豊かに日々を過ごしたいと思っています。

間もなく出会う新しい作品とその向こうに待っていて下さるお客様の事を思い浮かべつつ稽古再開の時をワクワクしながら待つ日々です！